

第10回研究会を10月25日（金）に
県立博物館講堂で行いました。

今回は規模を大きくして、「赤とんぼ」の
歌を読み解く講演会&パネルディスカッシ
ョン」と題して、県外から講師を招き、自説
の展開と討論を行って頂きました。

負うたのは誰？作者の露風は姐やだと書
き残している。友人の有本芳水は露風から母
だと聞いたと言っている。龍野の前図書館長
木村逸雄は「母に負われた」としている。こ
れには明治20、30年代の社会背景、また子
守りという娘の存在も考慮しなければいけ
ない。母親は子育てを子守りに任せていたの
ではないか。



総合司会の内田氏と開会挨拶の四井

福嶋朝治氏（『三木露風の歩み』編著者）



福嶋朝治氏

たのだ。」とまとめた。

は「露風が姐
やだと公の
場で言っ
ている。し
かし
歌の背景
に
母親をイ
メージし
てい
たから愛
唱され

飯田清親氏（南島原市文化財保護審議会委員）は「お里



飯田清親氏

はないかと推察した。

のたより」と
いうのは、か
たから露風
に宛てたた
よりを姐や
が中継ぎし
ていたので

湯口壽夫氏（たつの市露風旧邸地居住、中
霞城自治会長）は露風が十五歳の時にかたが



湯口壽夫氏

実在していないようだし、と述べた。

再婚をしたこ
とをちらつと
聞いた。かた
の子ども達の
ことを気遣い
母だとは言え
なかつたので
はないか、姐
やは

「赤とんぼよ永遠に」について

脚本の浜田多代子さんと演出の松
井麗子さんが、たつの市民が演じる各
場面を画像で説明し、見どころがよく
わかりました。

リレートークで想いを述べる



左からたつの文中智子さん、志水
豊章さん、鳥取佐々木千代子さん、
渡部一恵さんの4名

文中さんはかたさんの熱意に共感
し、『女権』（現代かな遣い版）を發行
した経緯を述べ、若い人にどんどん読
んでほしいと話しました。

※文中智子さんは今年三木露風生誕
百三十年を記念して、よみがえる碧
川かた発行『女権』創刊号現代版を復
刻して発行しました。（四井幸子）

たつとの交流コーナー

たつの市では大阪NHKに陳情に行くのは3回目ですが、先月10月16日に、今回は行政の人とでなく、かたの会の主だった5人で、大阪NHKを訪ねて行かれました。瀧口さん他団結して『女権』現代かな遣い版を持って行き、朝ドラ「カーネーション」を制作した2人と話しができて、「碧川かたの生涯」を「ドラマ性がありますねー」と言っていたそうです。

『赤とんぼ』の歌を読み解く」

に参加して

♪夕焼小焼の赤とんぼ♪何かにつけて、歌をうたって過ごした幼少期。「赤とんぼ」も学校で習ったのではなく、いつの間にか覚えていた歌でした。

今回その「赤とんぼ」をテーマに、研究会でパネルディスカッションが開催されると聞き、楽しみに参加してきました。

露風が「ねえや」の歌詞にうたったのは「子守娘」なのか「母かた」なのか。福嶋朝治氏、飯田清親氏、湯口壽夫氏の三名のパネリストがそれぞれ持論を展開し、時に白熱した議論になりました。高校での講演記録や『日本童謡全集①』などで露風は「子守娘」と幾度も公言していることから、私は詠まれたのは子守娘のことだと思っていました。今回三人のパネリストの話聞いて、改めていろいろと思いを巡らせました。

なかでも、湯口氏の持論にはハッとさせられました。というのも、これまで様々な書物に触れる中で、露風自身が子守娘のことと公言していたので、福嶋氏と同じく、私には子守娘以外の考えはなかったからです。ところが湯口氏は「十五でねえやは嫁に行き」というのは、十五歳の子守娘が嫁に行ったのではなく、露風が数えて十五の時に、母かたの碧

川企救男との再婚のを知り、新たな家庭のことを気遣い疎遠になった、その母のことを隠喩しているという論だったので。姐や母という論があることは以前から知ってはいましたが、今回の研究会で露風の年と、かたの再婚の年との関係を初めて認識しました。

露風が亡くなっている今となつては、真意はわかりません。「ねえや」は誰かということに固執することなく、これからも大切に歌い継いでいきたいと感じた時間でした。

ひらお
平緒佐和



昭和12年発行の『日本童謡全集①』を手にする平緒佐和さん

ホームページから研究会報を見るには

「鳥取県を舞台に！歴史大河ドラマを推進する会」と入力して、トップページにある「鳥取大河だより」をクイックしてください。今までの会報すべてが載っています。

「今後の予定」

- 『赤とんぼよ 永遠に』の支援

11月9日(土)・10日(日)

両日とも15時より

鹿野町総合福祉センターにて
チケット大人1000円

- 「碧川かたの生涯」ミニ講演

わらべ館にて

11月12日(火) 午後1時20分
より20分間 四井

(たつの市小宅地区の方が来館されます。)

- 次回 第11回研究会は湯梨浜町です。

「場所」湯梨浜中興寺の龍徳寺

「日時」令和元年11月30日(土)

午後1時00分〜3時00分

「今回の目的」碧川かたの周辺として

かたの養母千代の生家である堀家

の菩提寺を訪ねる。初めに墓を参詣し

て、景勝の庭を鑑賞する。墓への道は

険しいので長靴か運動靴がよいです。

はじめての方も歓迎です。(資料代

100円)。事前申込み不要です。